

令和7年度 指定管理運営業務評価票

施設名称： 大阪府立青少年海洋センター本館及びヨットハウス	指定管理者： ナンプフードサービス㈱、NPO法人NAC	指定期間： 令和6年4月1日～令和11年3月31日	施設所管課： 福祉部 子ども家庭局 青少年支援課
----------------------------------	--------------------------------	------------------------------	-----------------------------

※項目ごとの評価欄の括弧内は前年度の評価

評価項目	評価基準	指定管理者の自己評価	項目 ごとの 評価 S～C	施設所管課の評価	項目 ごとの 評価 S～C	評価委員会の指摘・提言
I. 提案の履行状況に関する項目						
(1) 施設を 管理運営す る基本方針	○青少年をはじめと する府民に自然と 親しむ健康で文化 的なレクリエーシ ョン活動の場を提 供し、青少年の健 全育成及び府民の 海洋レクリエーシ ョン活動の促進を 図るという施設の 目的に沿った運営 がなされているか	1. 提案した管理運営方針に沿った取組み 青少年の健全育成と海洋スポーツ・レクリエーション活動の促進及び施設の安全管理を重点目標に取り組む。 ① 青少年の健全育成の促進（青少年の自立支援） (1) プログラムの提供及び海洋活動等を体験する各種自主事業の実施 ● 青少年が自然体験活動及び生活体験等の実体験を通して、夢や社会性、自立心等を育み、生きる力を身に付ける等、健やかな成長に資するよう取り組んでいる。そのために海洋活動等魅力あるプログラム（資料3参照）を提供するとともに、幼児から高齢者、障がいのある人達等幅広い府民を対象に、資料3の通り、海洋活動を体験する各種自主事業を行っている。 ● 海洋センターの設置目的である青少年の健全育成活動に積極的に取り組み、青少年の健全育成に成果を上げている。 ● プログラム時間帯も柔軟に対応し、利用者の意向に極力沿うように実施した。 (2) 多様な課題を抱えた青少年を対象とした自立支援を行う自主事業の実施及び各種団体等の事業の受入れ・支援 ● 様々な障がいのある子ども達を対象にフレンドシップキャンプやふれあいユニバーサリィキャンプ等を実施する他、障がいのある青少年達のキャンプや作業所等のキャンプの受入れに積極的に取り組んでいる。 ② 府民に対する海洋スポーツ・レクリエーション活動の促進 (1) 海洋スポーツ・レクリエーション活動の拠点として、幅広い府民への活動参加機会の提供及び活動の普及・発展 ● 府民に開かれた海洋スポーツ・レクリエーション施設として、府民が手軽にカヌーやヨット等の海洋活動を体験を楽しめるよう取り組むとともに、海洋活動体験試乗会やカヌー・ヨット教室等、海洋スポーツ・レクリエーション活動の普及発展に取り組んでいる。 ● 毎日 TikTok で気温などをあげるほか、SNS を駆使し、海洋レクリエーションの楽しさを発信している。 ③ 自然教育・環境教育の実施 (1) 関西環境教育学会や環境教育を実践する団体と連携した環境教育の充実 ● 環境教育を実践する地元の環境教育団体「チームがさ」等と連携し、環境教育プログラムの実践に生かせるよう取り組んでいる。 ● 「海ほたる」の観察は、地域の専門家と連携して実施している。	S (S)	施設設置の趣旨を十分に理解し、青少年の健全育成及び青少年をはじめ幼児から高齢者、障がい者等幅広い府民に対する海洋レクリエーション活動の促進を実践している。 特に今年度は個人利用を対象として様々な手法で広報に取り組み、新たな利用者の開拓等、閑散期利用の促進に努め、誘致に成功している点は評価できる。	A (A)	

		- 子ども達が自然を知り自然を保護する気持ちを育むために、海洋活動や生き物観察等の海の自然に触れるプログラムの指導を行うとともに、プラスチックによる海洋汚染等、海の自然・環境保護の必要性を伝えている。 - SDGs の「海の豊かさを守ろう」の実践・啓発として、子どもたちと浜辺に打ち上げられたごみの観察や清掃等に取り組んでいる。 (2)施設利用者ととも C02 削減等エコチャレンジの取組み - 指定管理者が策定したエコチャレンジの取組みの一環として冷暖房等の電気量の節減や取組み、また油類の海への流失のないように取組み廃油の適切な処理を行っている。 ④ SDGs への取組み (1)プラスチックごみの減量や分別、浜辺のクリーンアップ事業の実施 - SDGs の「海の豊かさを守ろう」の推進に取り組み、マイクロプラスチックが環境問題になっていることを利用者に伝え、利用者と浜辺のゴミ拾いを行う等の活動に取り組むとともに、油類を海に流出させないように取り組んでいる。 (2)ジェンダー平等や健康・福祉等の目標に向けた取組み - 保健室・授乳室を常設しており、また、部屋の中には、ファーストエイドや冷凍室でアイスノン等を常備している - 指定管理者であるナックと看護教育支援協会とで「キャンブナース」を商標登録を行い、海洋センターの 1 泊以上のすべての自主事業に正看護師（キャンブナース）を配置した。また、50 名を超える参加者がいる場合は 2 名の看護師を配置している。 (3)SDGs の啓蒙活動の実施 - SDGs の啓蒙活動の一環として、ロビーに SDGs に関する啓蒙資料を掲示するとともに、職員の名札に SDGs のマークを入れ、SDGs の啓蒙活動に取り組んでいる。 - SDGs の目標「海の豊かさを守ろう」以外の「ジェンダー平等を実現しよう」「すべての人に健康と福祉を」「陸の豊かさを守ろう」等について、施設の運営、自主事業の中で取り組んでいる。 ⑤青少年活動指導者の養成 (1)年間研修計画の策定、施設の安定的な運営を見据えた人材の育成と活用 - 青少年の健全育成事業に従事するに相応しい人材の育成と能力の開発のために策定した年間研修計画（資料 7 参照）に基づき研修を行い、青少年活動指導者としての人材育成に取り組み、安定的な運営が図られるように取り組んでいる。 (2)専属の大学生ボランティアリーダー50 名の養成 - 今年度、50 名の大学生のボランティアリーダーの養成に取り組んでいる。資料 7 の研修計画に基づき、ボランティアリーダーとしての技術及び理論を習得させ、利用者の海洋活動等の指導及び自主事業の子ども達の指導に当たらせている。 - 大学生のボランティアリーダーが、リーダー活動を通して、人間的な成長を遂げられるよう指導に取り組んでいる。 ⑥府民の平等な利用の確保 (1)障がい者や高齢者等の利用の積極的な受入れ - 高齢者大学校やシニア自然大学校等の高齢者の利用及び、障がい者のキャンプや作業所等の利用を積極的に受入れている。			
--	--	--	--	--	--

		(2)ホスピタリティマインドの醸成による利用者サービスの向上 ● 利用者の対応については、「全てが利用者のために」の思いのもと、ホスピタリティマインドで、利用者の立場に立って親切丁寧に取り組み、利用者サービスの向上に努めている。 ⑦利用の促進 (1)個人利用客を対象とした広報 ● TikTok、Instagramなどの SNS での広報に加え、家族、個人向けの事業を増やしている。また、吉本興業の「寛平マラソン」を誘致し、タレントからラジオなど通じて広報頂いた。さらにインスタグラマーなどの動画を拡散する取り組みを考えている。 (2)閑散期利用の促進 ● 閑散期は、4月、11月、12月、3月となるが、大学、専門学校、高校などでの利用を行っている。(今年度は11月に高校、4月、5月、6月に専門学校授業誘致を行った。) ⑧安全最優先の施設運営の実施 (1)危機管理マニュアルに基づく安全最優先の施設運営の実施 ● 資料15の海洋センター危機管理マニュアルに基づき、利用者の安全を最優先に、施設の維持管理、海洋活動の安全管理、食物アレルギーへの対応、感染症予防及び熱中症予防等に取り組んでいる。 (2)良好な施設の維持管理 ● 老朽化が進む建物の安全管理及び広い敷地内にある樹木、雑草の管理に努め、補修整備が必要な箇所については、大阪府とも連携し、迅速に対応する等施設の良好な維持管理に努めている。(今年度は外壁の補修工事、エレベーターの工事等) (3)安全基準に基づく海洋活動の実施 ● 舟艇プログラムの安全基準に基づき、マリンチーフ（海洋活動の責任者）を中心にセンターの安全管理体制の下に海洋活動を実施している。実施に当たっては、当日の天候を把握するとともに、プログラム毎に指導救助艇を配置する等、海洋活動を安全に実施できるよう取り組んでいる。 ● 乗船者には、乗船名簿の提出及びライフジャケットの着用を義務付けている。 (4)防災訓練の実施 ● 消防署の指導により消防訓練（年2回）を実施、職員の安全管理意識の向上と火災等緊急時の対応についての確認及び火災時に迅速に取り組める様、防災訓練を行っている。 (5)アレルギー食の個別対応 ● 栄養士が食物アレルギーのある利用者を事前に把握し、アレルギー除去食を提供する等、個別に対応を行い安全な食事提供に取り組んでいる。 (6)熱中症の予防 ● 今夏の酷暑により利用者が熱中症を発症しないよう、熱中症の予防対策に取り組んだ。 ● 野外活動中、暑さを避けるために何時でも日陰に入れるよう、4つの艇庫とマリンハウスを整理し、避暑場所として活用している。 ● プログラム活動中以外は、利用者を炎天下にさらさないよう取り組んでいる。				
--	--	--	--	--	--	--

		● キャンピン前の集合テントにミストシャワーを設置している。 ● 利用者の熱中症の発症を予防するため、活動開始前に、団体の責任者と入念に話し合いを行い、当日の気象状況と参加者の体調を勘案の上、海洋活動等の実施に取り組んでいる。 ● 熱中症の発症予防のため、活動中に計画的に水分をとるよう指導し、水分を欠かさないように取り組んでいる。 ● 利用者に熱中症予防のプリント配布し、注意喚起している。 ⑧防災教育への取り組み (1) 津波・避難訓練等の防災教育 ● 岬町内の小学校の協力を得て、海洋活動実施中に地震が発生、津波が押し寄せて来るとの想定での避難訓練を実施し、津波発生時に迅速に対応ができるよう取り組んでいる。(6月12日(木)実施) (2) 防災教育プログラムの提供 ● 防災教育プログラムを利用者に提供及び指導を通して防災意識の向上に取り組んでいる。 ⑨地元岬町、NPO法人、関係機関及び近隣施設との連携と住民サービス向上への取り組み (1) 近隣市町村や青少年団体、NPO法人等関係団体との連携 ● 岬町をはじめ泉州地域の市町村及び関係機関や青少年団体、里海公園等と連携し、地域住民や青少年のための事業を企画実施する等、地域連携と住民サービスの向上に取り組んでいる。 (2) 地域住民や青少年のための事業の企画実施 ● 岬町が事務局を務めるマリンフェスティバル事業やせんなん里海さくらフェス、新春里海まつり等地域住民のための事業の企画実施に取り組んでいる。 ⑩関係団体とのネットワーク強化 (1) 関係団体への加入及び連携によるネットワークの構築・強化 ● 近畿地区青少年教育施設協議会の監事、大阪府青年の家等連絡協議会に正会員となり、近畿地区の青少年施設及び職員とのネットワークや大阪府キャンプ協会等野外活動実施団体と連携するとともに、情報の交換や近畿地区青少年教育施設協議会が実施する研修会やプロジェクトに参加する等、海洋センターの運営業務に生かしている。 ⑪コンプライアンスの遵守 (1) 施設運営に係る関係法令の遵守 ● 海洋センターは公の施設であることを十二分に認識し、大阪府立青少年海洋センタ一条例、労働基準法、旅館業法、船舶安全法、食品衛生法、個人情報保護法及びハラスメントの防止等当該施設の運営に関する関係法令を遵守し運営に取り組んでいる。 今年度中に、法令改正に伴い、観光船の免許を必要な職員全員が取得予定。				
--	--	--	--	--	--	--

		⑫安定した施設運営への取り組み (1)運営状況の分析及び改善の取り組み ● 安定的な運営を図るため、常に経費の執行状況等を把握し、利用者サービスを低下させることなく効率的な経費執行に努め、収支の改善に取り組んでいる。 (2)効率的な経費執行及び増収のための取り組み ● 業務の効率化等の取り組みや時間外勤務の削減等による人件費の削減や樹木・雑草の管理を職員で行う等の取組により、支出経費の削減に努めている。また、少しでも利用者を増やせるよう取り組み、施設利用収入の増額を図るとともに、自主事業の収入増に努めている。				
(2) 公平・平等な利用を図るための具体的手法・効果	○公の施設であることを踏まえ、公平・平等利用が図られているか	1. 公平・平等利用を確保するための基本方針 海洋センターは、公の施設であり、特定の団体・人が有利あるいは不利益にならないよう、府民誰もが平等に利用頂けるよう公正・平等な運営に取り組む。 ①職員の人権研修等の実施 ● 職員に対する人権研修は毎年実施しているが、昨年度は「子どもの理解」「ハラスメント」について研修を行った。今年度も、「ハラスメント」について、2月に外部講師による研修を予定している。 ②利用者アンケート等の実施による利用者の声や要望の把握 ● 利用者アンケートを実施し、利用者の満足度や要望、意見等を把握し、公平・平等利用に生かすとともに、指摘のあった事項については改善する等、より良い施設運営に資するよう取り組んでいる。アンケート結果については資料4・5のとおり。 2. 高齢者、障がい者等に対する配慮 ①ユニバーサルデザインの視点に立った施設づくり ● 過去、階段をスロープに改修及び手摺りの設置等を行ってきた。 ● すべての利用者に避難経路が分かるよう床に避難経路を明示し、緊急時に生かせるよう取り組んでいる。 ● 館内の案内表示をユニバーサルデザインのピクトグラム表示に変えている。 ②高齢者や障がいのある方の受入れのためのサポートに必要な知識・技術の習得及び配慮ある適切なプログラムの提案や、福祉教育の推進 ● 障がいのある人への理解とその指導について、外部講師による研修を行い、実践に生かせるよう取り組んでいる ● インテーク（事前打ち合わせ）の段階において、詳細な打合せを行い、出来る限り、体験をしていただくようなサポート体制を組んでいる。 ③障がい者及び特定疾患、小児慢性特定疾患のある利用者に対する施設利用料の割引 ● 障がい者、特定疾患医療受給者及び小児慢性特定疾患医療受給者のクルーザー（白鳥号）の利用に際し、介助者を含め利用料金を50%減額している。	A (S)	公の施設であることを十分認識し、人権研修等を欠かすことなく、誰もが平等に利用できるよう公正な運営に取り組んでいる。 高齢者や障がいのある方の受入れのため、詳細な打合せを実施するなど、利用者に寄り添ったサポート体制を組んでいる。	A (A)	

(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果	○年間目標来館者数の達成に向けた戦略的な取組みが適切に実施されているか	1. 利用者の増加を図るための具体的な取り組み	S (B)	宿泊、日帰りともに今年度の年間目標来館者数を超える見込みであり、昨年度からの広報活動が実績につながっていると言える。今年度も様々な媒体で広報活動を積極的に行っている。団体客の受け入れについても、利用団体への丁寧な説明を行い、空室が発生しないような部屋割り調整を行うなど工夫しながら利用者数の増加に貢献している。	S (B)	利用者が増加していることは評価できるが、閑散期の集客については課題が残るため、引き続き取り組んでいただきたい。
		① 年間目標来館者数・実績状況(令和7年11月30日現在)				

	利用内訳	計画	実績(見込)	計画との差	達率	前年同期実績	対前年同期比
R6年度	宿泊	24,200	24,311	+111	100.4%	25,185	96.5%
	日帰り	30,300	27,167	-3,133	89.6%	29,108	93.3%
	合計	54,500	51,478	-3,022	94.4%	54,293	94.8%
R7年度	宿泊	25,000	26,948	+1,948	107.7%	24,311	110.8%
	日帰り	29,000	29,763	+763	102.6%	27,167	109.5%
	合計	54,000	56,711	+2,711	105%	51,478	110.1%
R8年度	宿泊	24,200			%		%
	日帰り	30,300			%		%
	合計	54,500			%		%
R9年度	宿泊	24,400			%		%
	日帰り	30,600			%		%
	合計	55,000			%		%
R10年度	宿泊	24,600			%		%
	日帰り	30,900			%		%
	合計	55,500			%		%

②利用者の増加を図るための方策

(1)利用促進・広報活動の取組み

・個人向け広報

個人向け事業を数多く行うと同時にインスタグラマーでの投稿、産経新聞の掲載など媒体を駆使し、広く広報を行っている。

・SNS や広報紙による情報発信

日々、インスタを更新すると同時にインスタライブ、TikTokをはじめ、多種多様な人たちに興味をもっていただくような広報を実施している。また、大手旅行サイトや大阪府観光局などを媒体とした具体的な（海洋センターを利用したツアー造成）情報発信、さらには、モンベルのフレンドシップとして、連携を深め、広報誌にも掲載を行っているほか、「くらたん通信」を定期的に発行している。

・リピーターの確保

施設の利用者の増加を図るためには、利用した団体・個人をリピーターに繋げることが重要であり、利用者が利用の目的を達成し、満足を得てもらえるよう柔軟な受入れを行う等リピーターの確保と新規顧客の開拓に取り組んでいる。

・平日の利用促進の取組

海洋センターは府民誰もが年間を通して手軽に海洋スポーツ・レクリエーション活動が楽しめる「府民に開かれた施設」であることから、府民誰もが手軽に利用できる施設であることを周知し、新規顧客の開拓に取り組んでいる。

・繁忙期の宿泊団体の効率的な受入れ

できる限り、併用団体を利用団体のご理解を得ながら、空室を少なくした受け入れを行

		った。 ・準繁忙期の合宿・企業研修等の誘致 高校の授業を11月の平日に誘致し、また、企業が企画する事業などを誘致した。 ・当日利用希望者の受入れ 当日受け入れを積極的に行っている。 (2) 多彩な活動プログラムの提供と指導援助 *利用者の利用目的・規模・内容・季節等に応じ、適切なプログラムを提案するために、海洋活動プログラム、陸上活動プログラム、室内プログラム、自然学習プログラム等を準備し、利用目的が効果的に達成できるよう指導援助に取り組んでいる。利用目的が達成され、満足した成果を上げて頂くことによりリピーターに繋げている。(資料3参照) (3) 学校等団体の施設利用効果向上の取組み *学校では子ども達が生涯にわたって生きる力を身に付けることができるよう「主体的・対話的で深い学び」の学習が求められている。児童生徒が自然体験活動や生活体験活動を通して多くの学びができるよう、事前指導～活動実施～事後評価を一連の活動として、児童生徒の主体的な取組みを促進している。 *学校団体向け紹介動画を製作し、全小中学校に二次元コードでみられるようにしている。 (4) 利用促進事業の企画・実施 *青少年の健全育成及び年間の利用促進のための自主事業の企画実施に取り組んでいる。子ども達や家族を対象にしたキャンプ事業、高齢者も参加できるヨット・カヌー教室等事業、地元泉州地域の子どもの達や家族を対象にした事業、年間実施の子どものクラブ事業、海のようにちえん事業、障がいのある人を対象にしたユニバーサル事業等の企画実施に取り組み、利用の促進を図っている。(資料3参照) (5) 閑散期における利用促進の取組み *閑散期の利用促進は、開設以来の課題となっているが、スポーツ団体や音楽団体、勉強塾等の合宿利用を促進するとともに、秋の釣り及び冬期のマリンフェスティバルや冬のイベント事業等利用促進のための自主事業に取り組み、閑散期の利用促進に努めている。 *1月～2月は施設を休所しているが、事前に大阪府に申請し、利用を希望する団体の受入や利用促進のための自主事業の企画実施に取り組んでいる (6) ヨットハウスの会議室等の利用促進 *海洋センターのホームページにヨットハウスの研修室等の案内を掲載し、利用の促進に取り組んでいる。				
(4) サービスの向上を図るための具体的な手法・効果	○利用者サービスの向上を図るための取組みが適切に実施されているか	1. サービスの向上を図るための具体的な取組み ①サービスの向上のための取組み ● 府民に開かれた施設として、府民に手軽に利用頂けるよう取り組み、利用者の問合せ・要望には、できる限り応えるよう努め、親切丁寧な対応を心掛けている。 ● また、センターでの活動に満足頂けるよう、楽しい活動の提供、美味しい食事の提供、気持ちの良い生活空間の提供等に努めている。 ②利用者ニーズと満足度の把握 (1)施設利用者アンケートの実施	A (S)	生活環境向上のための衛生管理の実施やアレルギー除去食の提供、利用申込方法の利便性向上に取り組む、また、利用者ニーズに合わせた各種プログラムを提供する等、利用者サービスの向上に努めている。 アンケートについては、子ども、保護者ともに満足度の高い	A (A)	利用者アンケート集計結果について、利用者からのすべての意見に対する対応または検討内容がわかるよう記載いただきたい。意見だけではなく、満足度の低い回答があった際も、可能であれば個別に意見を聞いたり、振り返る時間を設けたりするなど、対応が必要と考える。

		● 資料4のとおり、継続して利用者アンケートを実施している。利用者の満足度や指摘・意見を把握し、施設運営に資するとともに、利用者サービスの向上に取り組んでいる。センターでの活動全般については、回答者の97.9%（普通を含む）の満足を得くとともに、海の活動については95%（普通を含む）の満足、職員・リーダーの対応に対しても99%（普通を含む）の満足を得ている。 ● アンケートの実施にあたっては、回収率が高められるよう取り組み、内容を分析し、施設運営に生かせるよう取り組んでいる。 (2)主催事業参加者アンケートの実施 ● 資料5のとおり、事業に参加の子ども達とその保護者にアンケートを実施している。保護者アンケートでは、84.3%の保護者が、参加した子ども達に「遅くなった」等の変化が見られたと回答、「やや思う」を加えると99%の保護者が子どもをキャンプに参加させて良かったと答えられている。 ● 95.6%の子どもがキャンプ参加して楽しかった、91.6%の子どもが新しい友達が出来たと答え、キャンプの効果をうかがうことができる。キャンプのプログラムでは、多くの子ども達がカヌーやクルージング等の海のプログラムが非常に楽しかったと回答し、海のプログラムに関心を示した。 ● アンケート内容を事業評価と事業のスクラップ&ビルド等今後の事業企画に生かすよう取り組んでいる。 (3)担当職員及びリーダーによる意見・感想の聞きとり ● 事業終了後、職員、ボランティアリーダーと振り返りを行い、課題が見つければ、今後の事業の企画に行かせるよう取り組んでいる。 ③魅力的なプログラムの提供 (1)海洋活動プログラム ● OP（オブティミストディンギョット） ヨットの組み立て、解装・後片付けを4人グループで行うとともに、2人1組で帆走体験を楽しむ。風の力を利用して進めるセーリング活動は、心に残る貴重な体験となるよう指導している。また、ヨットの操船技術の基本を学ぶこともできる。 ● いかだ 6人でタイヤと板をロープで縛って作製されたいかだを海に浮かべて楽しんだ後、いかだを陸にあげ、いかだの塩抜き作業を行い、格納する一連の活動は、チームワークを育み、冒険心、達成感を満たす等活動効果の高いプログラムである。 ● カッターボート 海の自然と対峙しながら乗船員全員が協力して行う活動で、チームワークの大切さを体験できるよう指導している。 ● カヌー 海上を散歩するかのようになり、海の自然と一体になって2人で楽しむ活動であり、安全にカヌーを進めるための自己判断が求められる活動である。海の自然に親しみ、主体的に活動に取り組むことにより、満足感・感動体験が得られるよう指導している。 ● 大型ヨット（クルーザー白鳥号） 年少の子ども達や障がいのある人達に、海の自然を肌で感じながらクルージングを体験、感動や夢を育むことができる。 (2)陸上活動プログラム	回答が多く、保護者からの回答では、参加した子ども達にポジティブな変化があったことが読み取れ、教育評価や施設目的の達成度という点では、一定評価できるものとする。		
--	--	--	---	--	--

		・キャンプファイアー キャンプで心に残る活動の1つがキャンプファイアーである。キャンプファイアー場を4ヶ所準備し、トーチや薪等キャンプファイアー用具を準備している。 利用者の希望により、薪組の指導を行っている。 ・野外炊さん キャンプで楽しい活動の1つが野外炊さんであり、300人が野外炊さんを楽しむことができるよう、2ヶ所の炊さん場と用具類を準備している。希望に応じて、炊さん材料の提供を行うとともに、食育の指導も行っている。 ・MAP 人間関係トレーニングプログラムで、気づき・支え合う気持ち、協力する心等を育むことができる活動で、センターの職員が指導に当たっている。ウォールやジャイアントシーソー、ラインナップのエレメントを常設している。 ・環境学習 自然環境学習のための自然観察ラリーコースを設けるとともに、魚釣りや磯観察、ウミホタル観察等のための機材をそろえている。環境教育実践プログラムとして、海水の調査、ウミホタルの観察等を行っている。 ・防災学習 津波の理解や災害時のクイズ（クロスロード）などを用いたプログラムを提供している。 ・館内プログラム シェルメモリー、コースターアートなど、雨天時や海プログラムができない場合において、すぐにできるクラフトを用意している。また、館内クイズラリーや館内OL等、海の知識を楽しく学べるプログラムも実施している。 ・海辺プログラム 生き物観察、海ボタル観察など、海辺の自然に触れ、学習できる。 ・施設周辺プログラム 里海公園を利用した活動を中心に街中ハイクなども行っている。 ④ 生活環境向上のための取組み ● 利用者の快適な生活環境の保持のために、宿舍清掃・消毒、害虫駆除、寝具の洗濯等宿舍の衛生管理を実施している。 ● 宿舍の清掃は、退所時に利用者が行っているが、清掃を徹底するために、日々、利用者の退所後職員による宿泊室の点検清掃を実施、宿泊室の整理整頓に努めている。 ● 宿泊室の衛生管理の為、業者による害虫駆除、定期清掃及び寝具類の洗濯及び管理棟の窓や床を定期的に行っている。 ● 今夏も猛暑のため、24時間宿舍の冷房を行った。 ⑤ 食物アレルギーを持つ利用者への対応（資料6参照） ● 食物アレルギーを持つ子ども達がキャンプに参加できるよう、アレルギー除去食を提供し、事故防止に取り組んでいる。 ⑥ 利用者の安心・安全を確保するための取組み ● 安全対策に取り組む、利用者に安心して活動頂けるように努めている。				
--	--	--	--	--	--	--

		● 栄養士が食物アレルギーを持つ利用者一人一人に対応し、個別にアレルギー除去食の献立を作り、安心な食事提供に取り組んでいる。 ● 気温が高い天候の場合は、熱中症予防のための指導を行い、利用者が安心して活動ができるよう取り組んでいる。 ● 利用者の病気・怪我等の対応の為、利用団体の責任者に近隣の病院等リストを事前に提供するとともに、自主事業では、看護師を常駐させている。 ● 海洋活動は、センターの指導体制の下に、安全に活動を実施している。 ● 消防訓練及び地震津波避難訓練を実施し、災害発生時に対応できるよう取り組んでいる。また、宿泊施設等館内の避難経路を床に明示し、利用者の安全対策を行っている。 ⑦地域との連携強化 ● 岬町が取り組む深日港フェスティバルの実施に向けて協力（6月29日）するとともに、マリンフェスティバル、くらたんフェスティバル等地元の協力を得て、各種事業を実施する等、地域と密着した施設運営と住民サービスの向上に取り組んでいる。 ⑧教育施設としての取り組み ● 小中学校の臨海学校や遠足等の体験学習の他、青少年の健全育成施設の特性を生かした人間関係トレーニング、環境教育プログラム、防災プログラム等の研修プログラムの提供を行う等、青少年の教育施設としての取り組みを行っている。 ⑨障がいのある利用者への対応 ● 障がい者を対象にしたフレンドシップキャンプやふれあいユニバーサリーキャンプ、シーカヤックチャレンジキャンプ等を企画実施する他、障がい者団体の施設利用を積極的に受入れ、活動の援助を行っている。 ⑩施設特性を活かした子育て支援事業の実施 ● 施設が持つ特性（共同、協力、自主性、自律性、海洋自然等）を生かし、サマーキャンプや年間クラブ事業、ファミリーキャンプ等の家庭の子育て支援事業やマリンフレンド親子キャンプ等親子の交流等事業、フレンドシップキャンプ等の自立支援事業等事業を企画実施している。 ⑪利用申込方法の利便性向上のための取り組み ● 利用申込み及び利用料の納入のための事務の簡素化を図るとともに、利用料金の納入の利便性を図るため、後納及び銀行振込み方法を導入している。 ● 二次元コードを用いて、スマートフォンでも事業の参加申込みができる。 ⑫デジタルサイネージの活用 ● ロビーにデジタルサイネージを設置し、情報の発信を行っている。				
--	--	---	--	--	--	--

(5) 管理運営業務実施計画の実施状況	○施設管理運営の基本方針を達成するため具体的な取組みが適切に実施されているか	1. 施設管理運営の基本方針を達成するための具体的な取組み ①「府民に開かれた施設」としての運営 ● 公の施設として、府民誰もが手軽に利用できる「府民に開かれた施設」として、また、施設の設置目的である青少年の健全育成及び府民の海洋スポーツ・レクリエーション活動の促進に取り組んでいる。 ②指導職員及び専属ボランティアリーダーの配置（資料1参照） ● 職員 19 名(非常勤除く)で施設の運営に取り組んでいる。職員 19 名の内 14 名が海洋活動の指導に当たるが、全員船舶免許を有している。また、11 名がカヌーの指導者資格を有している。 ● 養成した 50 名の大学生ボランティアリーダーを海洋活動等の指導及び自主事業に参加する子ども達の指導に当たらせている。 ③青少年に対する指導 ● 海洋センターは、次代を担う青少年が海に親しみ、規律を守り、責任を分かち合い、仲間や指導者との交わりを通して夢と希望を育み、心豊かで生きる力を持った逞しい青少年を育むことを目的としている。 ● その目的を達成するために、①豊かな海の自然との触れ合いを通して豊かな感性を育み、自然の大切さを認識させ、②仲間との生活を通して人間関係の在り方を体験的に学び、豊かな人間関係と社会性を育み、③様々な活動の中で自己への挑戦と自己判断の経験を通して主体性を育めるよう教育的に配慮した活動の指導に取り組んでいる。 ④充実した活動プログラムの提供 ● 利用者の目的、内容、時期等に応じて、参加者が興味・関心を持って活動に参加できるよう海洋活動プログラムや陸上活動プログラム等多彩なプログラムを準備し、提供している。（資料3参照） ⑤安全管理 (1)危機管理マニュアルの策定と危機管理体制（資料15参照） ● 職員で構成する安全管理委員会を設置し、危機管理マニュアルに基づき、施設の安全管理と海洋活動の安全運営に取り組んでいる。 ● 指定管理者各本部と現場職員とで緊急時の体制を構築するとともに、府をはじめ、関係機関病院等との連絡先を明記し、緊急時の対応を迅速にできるよう備えている。 ● 台風や大雨等の自然災害には、気象情報や警報、交通機関に対する情報等を十二分に把握し、利用の中止や早期退所等利用者の安全確保に努めている。 ● 火災等に対応するため、職員による自衛消防団を編成し、年2回の消防訓練に取り組んでいる。 ● 海洋活動実施中に地震による津波の発生を想定し、地元の小学校の協力を得て、津波避難訓練を実施している。 ● 海風館を地震発生時の避難場所に定め、利用者を避難誘導する。 ● 夜間の災害に対応するため、各宿泊室に避難用懐中電灯を配備している。 ● 職員及びボランティアリーダー全員に普通救命講習Ⅱを受講させている。	A (S)	施設管理運営の基本方針に基づく人員配置や安全管理、衛生管理が適切であり、青少年の健全育成及び府民に対する海洋レクリエーション活動の促進を実践している。特に今年度の津波注意報発令の際は、大阪府と密に連携を取り、利用団体の安全確保を最優先に取り組んでいたため、計画通り危機管理体制が機能していると評価できる。	A (A)	
---------------------	--	--	----------	--	----------	--

		(2)施設・設備の安全管理 ● 施設設備の安全管理のために、日常点検、定期点検、法定点検を確実にを行い、専門知識、資格を有する業務については、業務委託をするとともに、専門家の指導助言を得て、日常の安全管理に取り組んでいる。 ● 補修等を要する個所は、府とも連携し迅速に対応、施設等の安全管理に努めている。 ● 施設・設備の補修については、府においても年次計画策定の上、予算を確保、計画的に補修に取り組んで頂いている。 ● 入浴施設の安全管理のために、浴槽水の残留塩素の測定を行い、利用者が安全に入浴できるよう取り組んでいる。 ● 年2回施設全般の点検を行い、施設の補修等必要のある個所が見つかれば、迅速に補修等を行い、施設と利用者の安全管理に取り組んでいる。 (3)海洋活動の安全管理 ● 海洋活動は、マリンチーフ(海洋活動の責任者)を中心とする指導管理体制の下、「舟艇プログラムに関する安全基準」に基づき、湾内外とも風速 8m 以下（試行実施）で海洋活動を実施しているが、当日の気象条件により活動内容を調整実施する他、天候の急変にも備える等、安全管理の徹底に取り組んでいる。 ● 事務所とキャビンには緊急時に備え、必要な備品を配置し、事務所、マリンチーフ、指導救助艇とは、常に無線連絡を取れるようにしている。 ● 海洋活動に従事する職員は、全員船舶免許を保持し、海洋活動の指導に従事している。 ● 実施活動毎に指導救助艇を 1 艇以上配置し、安全に活動ができるよう取り組んでいる。 ● 海洋活動実施中は、マリンチーフが活動状況を把握し、常に天候の急変に備え指導救助艇と無線連絡を取り、安全に活動を進めている。 ● 海洋活動に参加する利用者の乗船名簿の提出とライフジャケットの着用を義務付けている。 ● エンジン艇に乗船する時は、国土交通省が定める桜マークの付いたライフジャケットを着用させている。 ● カッターボートの艇長には、安全に活動するために職員又は訓練を受けたボランティアリーダーを配置している。 ● 活動中のヒヤリハットの報告を受け、その原因を検討、改善することにより安全な活動に繋げている。 ● マリンチーフの会議を定期的開催し、海洋活動の安全管理に努めている。 ● 大阪府による施設の安全管理履行検査を受け、施設の安全管理の履行状況の確認と指導を頂いている。 (4)安全な食事の提供 ● 給食業務に従事するスタッフ及び自主事業担当職員に対しての研修の取り組み食品衛生講習会を毎年実施し、食に対する安全知識を高め、安心・安全な食事の提供に取り組んでいる。食物アレルギーをもつ利用者に対しては、個別にアレルゲン除去食の提供に取り組んでいる。 ● アナフィラキシーショック症状を発症した経験のある利用者には、安心して活動頂けるよう団体責任者と個別に調整をしている。 ● 食堂はナンプフードサービス（株）が運営しているが、食堂の衛生管理については、本社の管理者が定期的に厨房等の点検等を行う等、衛生管理に取り組んでいる。			
--	--	--	--	--	--

		(5)熱中症予防の取り組み ● 今夏の酷暑により利用者が熱中症を発症しないよう、熱中症の予防対策に取り組む。 ● 屋外活動中、暑さを避けるために何時でも日陰に入れるよう、4つの艇庫とマリンハウスを整理し、避暑場所として活用する。 ● プログラム活動中以外は、利用者を炎天下にさらさないよう取り組む。 ● キャビン前の集合テントにミストシャワーを設置する。 ● 利用者の熱中症の発症を予防するため、活動開始前に、団体の責任者と入念に話し合いを行い、当日の気象状況と参加者の体調を勘案の上、海洋活動等の実施に取り組んでいる。 ● 熱中症の発症予防のため、活動中に計画的に水分をとるよう指導し、水分を欠かさないように取り組む。 ⑥利用者の快適な生活の場の確保 ● 日々、宿舎内外の点検及び清掃・消毒を行い、施設・宿舎を常に清潔に保ち、利用者が快適に生活できるように努めている。汚損や破損している個所等があれば補修等迅速に対応している。 ● 職員は、感謝の心とホスピタリティの気持ちを持って利用者に対応し、サービスの向上に努めている。 ⑦地域連携 ● 岬町をはじめ近隣市町村、NPO法人、マリーナ協会、公園協会、観光協会等地域関係機関・団体と積極的に連携し、施設の運営に取り組んでいる。また、事業の企画に当たっては、地域住民や青少年のための事業を企画する等、地域連携と住民サービスの向上に努めている。																																				
(6) 自主事業計画の実施状況	○自主事業の企画・実施が計画的かつ適切に実施されているか	1. 自主事業の取組み ① 給食業務 ・ナンプフードサービス(株)によるノウハウを活かした食事提供 利用者に対する給食及び炊さん材料等の提供業務を行い、利用者に好まれる美味しい食事の提供に努めるとともに、食物アレルギーのある利用者の対応をしている。 ② 自主（主催）事業計画・実績（令和7年11月30日現在）※⇒は計画変更後 <table><tr><th>事業名</th><th>対象</th><th>定員</th><th>実施時期</th><th>回数</th><th>R7 実績 (実施回数・参加人数)</th></tr><tr><td colspan="6">(1)会員制年間事業</td></tr><tr><td>1</td><td>海洋キッズマリンクラブ（KKMC）</td><td>小～高校生</td><td>各 80 名</td><td>年間</td><td>1泊2日6回、 日帰り1回</td><td>1泊2日 4回 271 名</td></tr><tr><td colspan="6">(2)青少年（幼児から中学生まで）を対象とした事業</td></tr><tr><td>1</td><td>海のようちえん</td><td>幼児</td><td>各 50 名</td><td>年間</td><td>1泊2日1回、 日帰り5回</td><td>日帰り5回 203 名</td></tr></table>	事業名	対象	定員	実施時期	回数	R7 実績 (実施回数・参加人数)	(1)会員制年間事業						1	海洋キッズマリンクラブ（KKMC）	小～高校生	各 80 名	年間	1泊2日6回、 日帰り1回	1泊2日 4回 271 名	(2)青少年（幼児から中学生まで）を対象とした事業						1	海のようちえん	幼児	各 50 名	年間	1泊2日1回、 日帰り5回	日帰り5回 203 名	S (S)	おおむね計画通りの事業実施に努めている。また、職員数を見直している中、自主事業計画の定員を超える応募があった事業については、施設運営に支障のない範囲で定員数や回数を増やすなど、柔軟に対応し、府民ニーズに込えている。	A (A)	
事業名	対象	定員	実施時期	回数	R7 実績 (実施回数・参加人数)																																	
(1)会員制年間事業																																						
1	海洋キッズマリンクラブ（KKMC）	小～高校生	各 80 名	年間	1泊2日6回、 日帰り1回	1泊2日 4回 271 名																																
(2)青少年（幼児から中学生まで）を対象とした事業																																						
1	海のようちえん	幼児	各 50 名	年間	1泊2日1回、 日帰り5回	日帰り5回 203 名																																

		2	くらたんGW子どもキャンプ	小学生	60名	5月	1泊2日1回	1泊2日1回 40名					
		3	くらたんうきうきキャンプ	小学生	60名	8月	2泊3日1回	2泊3日1回 59名					
		4	海のおくぱりキャンプ	小学生・中学生 ⇒小学3年生以上・中学生	48名	8月	2泊3日1回 ⇒3泊4日1回	3泊4日1回 69名					
		5	くらたんサンSUNキャンプ	小学生	各60名	8月	2泊3日2回	2泊3日2回 71名					
		6	ハロウィンフィッシンググキャンプ	小学生・中学生	48名	10月 ⇒10月・11月	1泊2日1回 ⇒1泊2日2回	1泊2日2回 108名					
		7	くらたんクリスマスキャンプ	小学生	48名	12月	1泊2日1回						
		8	くらたんスプリングキャンプ	小学生	48名	3月	1泊2日1回						
		(3)家族を対象とした事業											
		1	ファミリーキャンプ	家族	12家族	4月	1泊2日1回	1泊2日1回 5家族19名					
					12家族	8月	2泊3日1回	2泊3日1回 12家族48名					
					12家族	10月	1泊2日1回	1泊2日1回 9家族34名					
		2	フィッシンググキャンプ	家族	各24家族	11月	日帰り3回	日帰り3回 53家族189名					
					15家族	11月	1泊2日1回	1泊2日1回 13家族31名					
		(4) 海洋活動の普及とスキルアップを目的とした事業											
		1	シーカヤック体験	一般・シニア	各15名	7～9月	日帰り3回 ⇒日帰り4回	日帰り7回 49名					
		2	セーリングスクール	一般・シニア	各10名	7,9月	日帰り3回	日帰り4回 43名					
		(5) ユニバーサル事業											
		1	フレンドシップキャンプ	障がい者	12名	8月	1泊2日1回	1泊2日1回 13名					

		<table><tr><td>2</td><td>ふれあいユニバーサリ－キャンプ</td><td>障がい者・家族</td><td>各 10 家族</td><td>5～11 月</td><td>日帰り 3 回</td><td>日帰り 3 回 18 組 42</td></tr><tr><td>3</td><td>フレンド親子キャンプ</td><td>障がい者・家族</td><td>10 家族⇒5 家族</td><td>9 月</td><td>1 泊 2 日 1 回</td><td>1 泊 2 日 1 回 10 組 32 名</td></tr><tr><td colspan="7">(6)指導者養成事業</td></tr><tr><td>1</td><td>環境教育指導者講習会</td><td>18 歳以上</td><td>20 名</td><td>3 月</td><td>1 泊 2 日 1 回</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>専属指導者養成</td><td>大学生</td><td>50 名</td><td>年間</td><td></td><td>50 名</td></tr><tr><td colspan="7">(7)地域各種団体・機関連携実施事業</td></tr><tr><td>1</td><td>せんなん里海さくらフェス</td><td>地域住民</td><td>2,000 名⇒500 名</td><td>3 月⇒9 月</td><td>日帰り 1 回</td><td>456 名</td></tr><tr><td>2</td><td>新春里海まつりフェス</td><td>地域住民</td><td>2,000 名⇒500 名</td><td>1 月</td><td>日帰り 1 回</td><td></td></tr><tr><td colspan="7">(8)地域サービスを目的とした事業</td></tr><tr><td>1</td><td>マリンフェスティバル</td><td>家族・一般</td><td>各 300 名</td><td>9 月・3 月⇒11 月 3 月</td><td>2 回</td><td>11 月 215 名</td></tr><tr><td colspan="7">(9)冬期利用促進事業</td></tr><tr><td>1</td><td>冬のイベント</td><td>小学生・中学生</td><td>各 30 名</td><td>12～2 月</td><td>日帰り 3 回</td><td></td></tr></table> ②売店業務 ・日用品、薪、炭及びプログラム材料等の販売	2	ふれあいユニバーサリ－キャンプ	障がい者・家族	各 10 家族	5～11 月	日帰り 3 回	日帰り 3 回 18 組 42	3	フレンド親子キャンプ	障がい者・家族	10 家族⇒5 家族	9 月	1 泊 2 日 1 回	1 泊 2 日 1 回 10 組 32 名	(6)指導者養成事業							1	環境教育指導者講習会	18 歳以上	20 名	3 月	1 泊 2 日 1 回		2	専属指導者養成	大学生	50 名	年間		50 名	(7)地域各種団体・機関連携実施事業							1	せんなん里海さくらフェス	地域住民	2,000 名⇒500 名	3 月⇒9 月	日帰り 1 回	456 名	2	新春里海まつりフェス	地域住民	2,000 名⇒500 名	1 月	日帰り 1 回		(8)地域サービスを目的とした事業							1	マリンフェスティバル	家族・一般	各 300 名	9 月・3 月⇒11 月 3 月	2 回	11 月 215 名	(9)冬期利用促進事業							1	冬のイベント	小学生・中学生	各 30 名	12～2 月	日帰り 3 回				
2	ふれあいユニバーサリ－キャンプ	障がい者・家族	各 10 家族	5～11 月	日帰り 3 回	日帰り 3 回 18 組 42																																																																																			
3	フレンド親子キャンプ	障がい者・家族	10 家族⇒5 家族	9 月	1 泊 2 日 1 回	1 泊 2 日 1 回 10 組 32 名																																																																																			
(6)指導者養成事業																																																																																									
1	環境教育指導者講習会	18 歳以上	20 名	3 月	1 泊 2 日 1 回																																																																																				
2	専属指導者養成	大学生	50 名	年間		50 名																																																																																			
(7)地域各種団体・機関連携実施事業																																																																																									
1	せんなん里海さくらフェス	地域住民	2,000 名⇒500 名	3 月⇒9 月	日帰り 1 回	456 名																																																																																			
2	新春里海まつりフェス	地域住民	2,000 名⇒500 名	1 月	日帰り 1 回																																																																																				
(8)地域サービスを目的とした事業																																																																																									
1	マリンフェスティバル	家族・一般	各 300 名	9 月・3 月⇒11 月 3 月	2 回	11 月 215 名																																																																																			
(9)冬期利用促進事業																																																																																									
1	冬のイベント	小学生・中学生	各 30 名	12～2 月	日帰り 3 回																																																																																				
(7) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	○維持管理の役割分担に基づき、施設、設備、備品等の安全管理・安全対策が適切に実施されているか ○維持管理の役割分担に基づき、施設、設備、備品等の改修・修繕・更新が効率的、計画的かつ適切に実施されているか	1. 施設・設備の改修・整備及び購入について ① 施設・設備の整備に関する取り組み ・各種点検の実施 ・改修に向けた取り組み ・樹木剪定及び雑草等の整備 ② プログラム備品に関する取組み ・ライフジャケット買替補充（常時 300 着）50 着購入（9 月） ・いかだの整備（20 台）パドル 60 本購入（4 月）タイヤチューブ 80 個補充（6 月） ・自然観察ラリーポスト整備 ・MAP（人間関係トレーニングプログラム）のためのエレメント整備・備品購入 ・野外炊さん場の自炊用具の充実（300 名対応）・屋根の修理 ・玄関ロビーにデジタルサイネージ設置 ③エンジン艇等の修理に関する取組み (1)使用艇の日常点検の実施 点検簿常時 (2)舟艇更新・補修整備計画に基づく補修整備の実施	A (A)	維持管理の役割分担に基づく施設、設備、備品等の改修・修繕・更新は、緊急性や優先順位を踏まえた上で実施している。 設備等の不具合が確認された際は、すぐに大阪府へ報告し、その後の対応について相談しているため、円滑な施設運営につながっている。 また、施設の安全管理・安全対策も適切であり、施設周辺の除草、樹木の伐採、近隣住民や岬町からの要請に適切に対応しており、大きな事故等を防ぐことができている。	A (A)	今年度の収入増分をトイレの洋式化に充当することは評価できる。引き続き府と協議しながら、必要な補修や整備を進め、利用者サービスに還元してほしい。																																																																																			

		④その他管理に際して必要な事項 プログラムごとに振り返りミーティング (1) 利用者の安全確保対策 ・安全管理体系の構築 ・施設賠償保険への加入 ・安全管理委員会の設置（随時会議） ヒヤリハット事例の報告 ・自衛消防組織の編成 ・地震・津波避難訓練の実施 利用団体協力のもと、実施 ・感染症対策 利用者への案内の徹底 (2) 施設の管理運営上の安全対策 ・海上における安全対策 1 団体に 1 艇のレスキュー艇を並走 マリンチーフを常駐させ、陸から監視・指示 ・陸上（施設・設備）における安全対策 ・地震・津波に対する安全対策 ・悪天候に対する安全対策 事前に利用者へ案内 ・急病者等への対応 (3) 安全管理能力の強化 ・救急法、心肺蘇生法、応急処置法の定期研修の実施 普通救命講習の受講 ・ケーススタディによる事例研究等の実施 ・危機管理マニュアルの見直し 常時見直し、最善の安全対策を行う 2. 施設の維持管理について ① 施設・設備の日常管理（清掃含む）及び保守点検 (1) 日常清掃 (2) 宿泊棟・研修棟の点検（日常） 退所時点検、清掃 (3) 警備員による巡回点検（日常） (4) 厨房内の衛生点検（日常） (5) 船舶関係の点検（日常） (6) 機械・電気設備等の点検（技師による日常点検） (7) 防火管理者による防火設備等の点検（週 1 回） ② 外部業者による日常・保守管理 (1) 設備管理業務 (2) 電気設備保守管理業務 (3) 保安警備業務 (4) 植栽樹木管理 (5) 清掃業務				
--	--	--	--	--	--	--

		(6)府有地（遊歩道等）の管理 植栽整備、草刈り (7)ヨットハウスの各種点検保守等																
(8) 管理運営経費削減方策	○管理運営経費の削減方策が提案どおり実施され、管理運営経費が効率的に執行されているか	1. 管理運営経費の削減 ① 府からの管理運営経費の所要額 <table><tr><td>R6 年度</td><td>R7 年度</td><td>R8 年度</td><td>R9 年度</td><td>R10 年度</td><td>総額</td></tr><tr><td>96,380 千円</td><td>96,380 千円</td><td>96,380 千円</td><td>96,380 千円</td><td>96,380 千円</td><td>481,900 千円</td></tr></table> ②具体的方策 (1)支出経費の効率的な執行 ・人件費の効率的な執行 前年度より、マイナス1名 来年度は、4月～9月までの季節職員を検討	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	総額	96,380 千円	96,380 千円	96,380 千円	96,380 千円	96,380 千円	481,900 千円	A (B)	支出金額自体は計画よりも増加しているものの、施設運営に支障のない範囲で人員や食堂の光熱水費の削減を実施し、管理運営経費の効率的な執行に努めている。	A (B)	
R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	総額													
96,380 千円	96,380 千円	96,380 千円	96,380 千円	96,380 千円	481,900 千円													
(9) 府施策との整合	○府が実施する事業等への協力の取組みが適切に実施されたか	1. 府、町実施事業への協力の取組み ① 岬町主催事業への協力・連携 岬町 70 周年と合わせた相互広報 ② マリンフェスティバル実行委員会への参画等、地域団体との協力、事業実施 (11/3) ③ 岬町観光協会役員への就任、同協会との協力、相互連携による事業の実施 ④ 府青少年施策を踏まえた各種事業の企画実施、子育て支援の推進 ⑤ 男女いきいき元気宣言事業者として、男女における共同参画の推進 ⑥ 岬高校 (6/13. 6/23. 9/22. 9/26) や近隣中学校 (6/12)、大学生等の受入れ指導を行う等、教育機関との連携 (8/12) 2. 行政の福祉化の取組み ① 障がい者雇用による府障がい者就労支援事業への協力 ② エル・チャレンジ団体による障がい者の清掃活動への協力 ③ 府高齢日雇労働者自立支援事業への協力 ④ 障がいのある青少年や親子を対象としたフレンドシップキャンプ事業等の実施 ⑤ 障がい者及び特定疾患、小児慢性特性疾患のある利用者に対する施設利用料の割引 ⑥ まいど子でもカード事業への協力 3. 府民・NPO 法人との協働の取組み ① ボランティア・NPO 法人等との協働事業の実施 (1)障がい者を対象とし、(一財)大阪府青少年活動財団等と連携したユニバーサル事業の実施 (10/10) (2)隣接する里海公園での等との連携、地域資源の活用による利用促進の取組み (9/28) (3)マリンフェスティバル実行委員会への参画等、地域団体との協力、事業実施 (11/3) (4)地域総合型スポーツクラブや岬町文化協会等の地域団体の事業への協力 (5)岬町が実施する深日港活性化イベント等、各種活性化事業への協力 (6/29) (6)高齢者団体の施設利用に伴う事業協力や講師派遣等の協力 (10/10～11)	A (S)	府の青少年健全育成施策を踏まえた各種事業を企画・実施している。 また、岬町主催事業への協力、行政の福祉化、府民・NPO 法人との協働及び環境問題にも適切に取り組んでおり、府施策と整合している。 府が発注する障がい者の清掃活動や府高齢日雇労働者自立支援事業にも協力している。	A (A)													

		② 施設運営やサービス向上、事業企画等に府民・NPO 等が参画できる機会確保の取組み (1)NPO 法人等との協働事業の実施 環境 NPO 団体「チームがさ」との連携（海はたらの観察） (2)ボランティア指導員を活用した施設のプログラム指導 (3)地域連携事業の実施 (4)地元サークル等との連携 4. 環境問題への取組み ・自主的環境マネジメントシステムの構築 ・入所時に SDG s「海の自然を守ろう」の話 ・海のごみの観察プログラム																																																																																						
II. さらなるサービスの向上に関する事項																																																																																								
(1) 利用者満足度調査等	○アンケート等による利用者の意見の把握、調査結果のフィードバックが適切になされているか	1. アンケート等による利用者の意見の把握	<table><tr><td></td><td>R6 年度</td><td>R7 年度</td><td>R8 年度</td><td>R9 年度</td><td>R10 年度</td></tr><tr><td>利用団体数</td><td>542 団体</td><td>598 団体</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>日帰り</td><td>153 団体</td><td>170 団体</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>宿泊</td><td>389 団体</td><td>428 団体</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>回収数</td><td>217 件</td><td>185 件</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>日帰り</td><td>26 件</td><td>20 件</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>宿泊</td><td>191 件</td><td>165 件</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>回収率</td><td>40%</td><td>30%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>日帰り</td><td>17%</td><td>11.8%</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>宿泊</td><td>49%</td><td>38%</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	利用団体数	542 団体	598 団体				日帰り	153 団体	170 団体				宿泊	389 団体	428 団体				回収数	217 件	185 件				日帰り	26 件	20 件				宿泊	191 件	165 件				回収率	40%	30%				日帰り	17%	11.8%				宿泊	49%	38%				B (B)	今年度は 2 次元コードを採用するなど、昨年度の自己評価を活かした方策を実施した点は評価できるが、その場で回答してもらえないことから回収率が下がってしまったことについては、引き続き対応を検討されたい。 アンケートの回答結果によると、施設を利用した滞在全般の満足度の割合は昨年度に引き続き非常に高く、これからも利用者サービスの向上及びリピーター増加に向けた施設の管理運営に努めていただきたい。	B (B)	アンケートについて、より多くの意見からニーズを拾い上げるため、2 次元コードと紙のメリット、デメリットを考慮し、よりよい策を検討することが望ましい。 利用者だけではなく、地域からのニーズも把握し、利用者対応やプログラム開発、連携強化等に活かしてほしい。																			
						R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度																																																																														
利用団体数	542 団体	598 団体																																																																																						
日帰り	153 団体	170 団体																																																																																						
宿泊	389 団体	428 団体																																																																																						
回収数	217 件	185 件																																																																																						
日帰り	26 件	20 件																																																																																						
宿泊	191 件	165 件																																																																																						
回収率	40%	30%																																																																																						
日帰り	17%	11.8%																																																																																						
宿泊	49%	38%																																																																																						
② アンケート集計結果																																																																																								
		(1)日帰り利用	<table><tr><th rowspan="2">項目</th><th rowspan="2">評価</th><th colspan="3">R6 年度</th><th colspan="3">R7 年度</th></tr><tr><th>件数 (件)</th><th>割合 (%)</th><th>回答率 (%)</th><th>件数 (件)</th><th>割合 (%)</th><th>回答率 (%)</th></tr><tr><td rowspan="5">申込手続き等</td><td>大変満足</td><td>14</td><td>54%</td><td rowspan="5">17%</td><td>12</td><td>60%</td><td rowspan="5">11.8%</td></tr><tr><td>満足</td><td>11</td><td>42%</td><td>7</td><td>35%</td></tr><tr><td>普通</td><td>0</td><td>0%</td><td>1</td><td>5%</td></tr><tr><td>不満</td><td>0</td><td>0%</td><td>0</td><td>0%</td></tr><tr><td>大変不満</td><td>1</td><td>4%</td><td>0</td><td>0%</td></tr><tr><td rowspan="5">海のプロ グラム</td><td>大変満足</td><td>15</td><td>68%</td><td rowspan="5">14%</td><td>13</td><td>72.2%</td><td rowspan="5">10.5%</td></tr><tr><td>満足</td><td>6</td><td>27%</td><td>4</td><td>22.2%</td></tr><tr><td>普通</td><td>1</td><td>5%</td><td>1</td><td>5.6%</td></tr><tr><td>不満</td><td>0</td><td>0%</td><td>0</td><td>0%</td></tr><tr><td>大変不満</td><td>0</td><td>0%</td><td>0</td><td>0%</td></tr><tr><td rowspan="2">陸・室内プ ログラム</td><td>大変満足</td><td>7</td><td>64%</td><td rowspan="2">7%</td><td>4</td><td>66.6%</td><td rowspan="2">3.5%</td></tr><tr><td>満足</td><td>4</td><td>36%</td><td>1</td><td>16.7%</td></tr></table>			項目	評価	R6 年度			R7 年度			件数 (件)	割合 (%)	回答率 (%)	件数 (件)	割合 (%)	回答率 (%)	申込手続き等	大変満足	14	54%	17%	12	60%	11.8%	満足	11	42%	7	35%	普通	0	0%	1	5%	不満	0	0%	0	0%	大変不満	1	4%	0	0%	海のプロ グラム	大変満足	15	68%	14%	13	72.2%	10.5%	満足	6	27%	4	22.2%	普通	1	5%	1	5.6%	不満	0	0%	0	0%	大変不満	0	0%	0	0%	陸・室内プ ログラム	大変満足	7	64%	7%	4	66.6%	3.5%	満足	4	36%	1	16.7%
項目	評価	R6 年度			R7 年度																																																																																			
		件数 (件)	割合 (%)	回答率 (%)	件数 (件)	割合 (%)	回答率 (%)																																																																																	
申込手続き等	大変満足	14	54%	17%	12	60%	11.8%																																																																																	
	満足	11	42%		7	35%																																																																																		
	普通	0	0%		1	5%																																																																																		
	不満	0	0%		0	0%																																																																																		
	大変不満	1	4%		0	0%																																																																																		
海のプロ グラム	大変満足	15	68%	14%	13	72.2%	10.5%																																																																																	
	満足	6	27%		4	22.2%																																																																																		
	普通	1	5%		1	5.6%																																																																																		
	不満	0	0%		0	0%																																																																																		
	大変不満	0	0%		0	0%																																																																																		
陸・室内プ ログラム	大変満足	7	64%	7%	4	66.6%	3.5%																																																																																	
	満足	4	36%		1	16.7%																																																																																		

			普通	0	0%		1	16.7%	
			不満	0	0%		0	0%	
			大変不満	0	0%		0	0%	
		職員・ リーダーの サービス	大変満足	15	58%	17%	15	75%	11.8%
			満足	8	31%		5	25%	
			普通	1	4%		0	0%	
			不満	1	4%		0	0%	
			大変不満	1	4%		0	0%	
		給食内容	大変満足	6	50%	8%	7	70%	5.8%
			満足	5	42%		2	20%	
			普通	0	0%		1	10%	
			不満	0	0%		0	0%	
			大変不満	1	8%			0%	
		施設設備	大変満足	13	50%	17%	10	50%	11.8%
			満足	10	38%		5	25%	
			普通	2	8%		5	25%	
			不満	1	4%		0	0%	
			大変不満	0	0%		0	0%	
		滞在全般	大変満足	15	60%	16%	12	60%	11.8%
			満足	9	36%		7	35%	
			普通	0	0%		1	5.3%	
			不満	1	4%		0	0%	
			大変不満	0	0%		0	0%	

(2) 宿泊利用

項目	評価	R6 年度			R7 年度		
		件数 (件)	割合 (%)	回答率 (%)	件数 (件)	割合 (%)	回答率 (%)
申込手続き 等	大変満足	73	40%	47%	56	34%	38.6%
	満足	83	45%		77	47%	
	普通	23	13%		31	19%	
	不満	4	2%		1	0.6%	
	大変不満	0			0	0%	
海のプログラ ム	大変満足	122	67%	47%	98	61.6%	37.1%
	満足	52	28%		51	32%	
	普通	6	3%		8	5%	
	不満	2	1%		2	1.2%	
	大変不満	1	1%		0	0%	
陸・室内プ ログラム	大変満足	52	37%	37%	34	27%	29.4%
	満足	52	37%		46	36.5%	
	普通	38	27%		34	27%	
	不満	0	0%		3	2.4%	

	大変不満	0	0%		9	7%	
職員・リーダーのサービス	大変満足	115	61%	49%	95	58%	38.6%
	満足	64	34%		62	38%	
	普通	8	4%		7	4%	
	不満	1	1%		1	1%	
	大変不満	2	1%		0	0%	
給食内容	大変満足	79	42%	48%	68	42.2%	37.6%
	満足	74	40%		54	33%	
	普通	30	16%		34	21%	
	不満	4	2%		5	3%	
	大変不満	0	0%		0	0%	
施設・設備	大変満足	51	27%	49%	31	19%	37.6%
	満足	68	36%		63	39.1%	
	普通	58	31%		56	34%	
	不満	12	6%		11	7%	
	大変不満	1	1%		0	0%	
滞在全般	大変満足	71	38%	48%	61	37%	38%
	満足	94	50%		71	43%	
	普通	20	11%		29	18%	
	不満	2	1%		2	1%	
	大変不満	0	0%		0	0%	

③ 主な意見

(1) プラス評価

スタッフの説明がわかりやすかった
 おかわりができてうれしい
 洋式トイレが増えていてよかった
 白鳥（クルージング）が気持ちよかった
 融通を聞いていただきありがとうございました
 アレルギーの対応ありがとうございます
 270万人目に選んで頂き、特別な思い出ができました。

(2) マイナス評価

付き添いのおとな料金を子どもと同額にしてほしい
 おふろの時間が短い
 お風呂にシャンプー・石鹸がほしい
 部屋の中に洗面台がほしい
 空調が効かず、寝苦しかった
 シーツやゴミ袋代を料金に含めてもらえるとわかりやすい

(3) その他

施設の老朽化が否めない

		2. 調査結果のフィードバック ① 当年度に改善した点 海プログラムを団体に合わせて、臨機応変に時間の変更をおこなった 宿直よるの事務所時間を 22 時から 22 時 30 分に変更し、就寝後の見回り強化をはかった ② 次年度に改善する点 できる限りワンストップで対応していく				
(2) その他 創意工夫	○その他指定管理者によるサービス向上につながる取り組み、創意工夫がなされているか	1. 自主事業における創意工夫の取組み ①利用者対応 ・事業担当職員とボランティアリーダーの配置 *各事業担当者が事業の企画・実施等に取り組むが、担当するボランティアリーダーと企画段階からミーティングを重ね、事業参加者に満足頂けるよう取り組んでいる。 *事業担当者が事業参加者との連絡・調整の窓口になり、事業案内書類を発送する等参加者への諸連絡・調整及び参加者からの問合せ、相談等を利用者の立場に立って親切に対応し、保護者とのコミュニケーションを深めるように取り組んでいる。 *事業の実施あたっては、事業担当職員とボランティアリーダーが利用者のニーズ・関心に基づき活動プログラムを立案、指導に取り組んでいる。事業実施中も、より良い活動のためにミーティングを行うとともに、事業終了後振り返りを行い、事業の評価を行っている。 *子ども達がキャンプを通して、新しい体験と夢などを育めるよう、リーダーが子ども達と生活を共にしながら活動の指導に当たっている。 ・事業参加者の健康管理 *事前に事業参加者から提出頂く事業参加カードにより、食物アレルギー等の有無や既往症等参加者の健康状態を把握し、不明な点については、保護者に確認を取る等安全管理に努めるとともに、子ども達の安全指導に生かしている。 *事業参加の集合時に、発熱の有無や体調等健康状態を確認し、異常があれば参加を辞退して頂く等の対応に取り組んでいる。 *体調の悪い子どもが出た場合は、保護者に連絡を取り、その対応を相談し、保護者に安心いただけるよう取り組んでいる。 *障がい者のフレンドシップキャンプには、看護師のほか、障がい者についての専門家も配置しており、健康管理等に取り組んでいる。 *キャンプ終了後も参加した子ども達と繋がりを持てるよう取り組んでいる。 ②食事提供 ・アナフィラキシーショック症状を発症した経験のある人に対しては、安全に活動に参加頂くために、弁当持参をお願いしている。 ・野外炊さんでは、団体の要望に応じて、ご飯又は副食のみを提供するサービスを行っている。 ③自主事業 ・多種多様な対象に向けた事業の実施 ・府民の要望に応える事業調整 *府青少年支援課の協力により、府内全小学校に事業のチラシを配布、募集定員を超える	S (S)	事業担当職員とボランティアリーダーによるプログラムの企画段階からの調整、立案及び指導、実施前の参加者や保護者への配慮、事業終了後の振り返り・評価が行われており、事業参加者に寄り添った体制を構築できている。 SNS への投稿についても、特にインスタグラムは動画再生回数やフォロワー数が増えていることから、今後も効果的に活用されたい。	A (A)	

		参加申込みを頂いた。 *参加申込みが非常に多い夏期の子どもキャンプ事業については、募集定員を拡大するとともに、秋の家族対象の釣り事業についても、募集定員の拡大を図り、できるだけ多くの府民が参加できるように取り組み、府民の要望に応じている。 ・子どものキャンプの取り組み *子どもを対象にした自主事業では、5～6人のグループ毎に養成したボランティアリーダーを配置、24時間生活を共にしながら自然体験や生活体験活動の指導に当たらせ、子ども達に感動体験や健やかな成長に資するより良い体験が与えられるよう取り組んでいる。 *また、子ども達のキャンプでは、生活プログラムを重要なプログラムとして大切にしたい。上で、自然体験活動や集団生活体験に取り組んでいる。 *夏期の子どもキャンプでは、キャンプに参加している子ども達全員に帽子を配布し、他団体との区別と所属意識が高められるよう取り組んでいる。 *キャンプ参加中の子ども様子を保護者に伝え、安心してもらうとともに、キャンプの理解を深めてもらえるよう、海洋センターが開設しているインスタグラムのページに、子ども達の活動状況をアップしている。また、事業終了後、保護者の了解のもと活動中の写真をアルバムサイトにアップし、保護者に見てもらい、必要な写真をプリントしてもらうよう取り組んでいる。 *事業に参加した子ども達には、繋がりを保つために、様々な事業案内の送付に取り組んでいる。 *家族対象に事業の拡大をはかった ・経費の削減 *利用者とのやり取りは郵送で行っていたが、今年度から LINE のみとしたため、郵送にかかる切手代等の経費を抑えることができた 2. その他創意工夫の取り組み ①利用者対応 ・利用者が安心して施設を利用し、利用目的を達成してもらえるよう利用のための現地の下見、打ち合わせを綿密に行うとともに、その後も利用責任者と常に連絡を取合うようにしている。 ・利用者の事前打ち合わせ時に、パワーポイントによる施設の紹介、利用方法、活動内容の説明を行い、施設の理解を深めて頂いた上で、利用計画の作成に取り組んでもらっている。 ・ホームページに利用の手引きを掲載し、利用者がコピーして活用できるようにしている。また、年間自主事業カレンダーを作成、ホームページに掲載し事業 PR に取り組んでいる。 ・指定管理者が設置した施設 MAP の活用とプログラムの指導の為、職員で指導チームを編成し、指導に当たるよう取り組んでいる。 ②充実した広報の取り組み ・職員の名札や受付にも SNS の QR コードを読み込めるカードを用いている。 ・施設の PR かねて 270 万人達成の記事を産経新聞でとりあげていただいた。（6 月 6 日）※資料 16				
--	--	---	--	--	--	--

		③SNS 活用状況（令和7年11月30日現在）										
		項目	項目	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度				
		TikTok	投稿数	68 件	65 件							
			動画再生回数	81,486 回	998,192 回							
			いいね数	1,857 件	15,731 件							
			フォロワー数 (増減数)	104 人	1,288 人 (1,184 人)							
		Instagram	投稿数	1,327 件	470 件							
			動画再生回数	58,877 回	418,548 回							
			いいね数	8,393 件	7,476 回							
			フォロワー数 (増減数)	2,797 人 (348 人)	2,916 人 (119 人)							
		※ フェイスブックは休止している。										
Ⅲ. 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目												
(1) 収支計画の内容、適格性及び実現の程度	○事業収支計画の達成に向けた戦略的な取組みが適切に実施されているか	1. 事業収支計画・実績状況 (単位:千円)							S (B)	利用者増のための積極的な広報を行い、収入増につなげることができた。さらに、各種利用料金の値上げに関し、1年以上前から丁寧な周知を学校等に行い、混乱や不満が出ることなく値上げを実施するなど、収支計画の達成に向けて取り組んでいる。 計画からの大幅な増となったため、来年度は実情にあわせて収支計画を見直し、引き続き事業収支計画の達成に努められたい。	S (B)	
				計画	実績 (見込)	計画との差	達成率	前年同期実績				対前年同期比
		R6 年度	収 入	246,834	253,064	6,230	102.5%	265,923				95.1%
			委託管理費	96,380	96,380	0	100%	97,355				98.9%
			利用料金	82,233	82,210	△23	99.9%	86,212				92.6%
			その他収入	68,221	74,473	6,252	109.1%	82,356				88%
			支 出	246,511	255,856	9,345	103.7%	264,840				96.6%
		R7 年度	損 益	323	△2,791	-3,114	-	1,083				-
			収 入	268,207	284,957	16,750	106.2%	253,064				112.6%
			委託管理費	96,380	96,380	0	100%	96,380				100%
			利用料金	92,892	98,737	5,845	106.2%	82,210				120.1%
			その他収入	78,934	89,840	10,906	113.8%	74,473				120.6%
		R8 年度	支 出	266,621	268,162	1,541	100.5%	255,856				104.8%
			損 益	1,586	16,795	15,209	1058.9%	△2,791				-
			収 入	251,588			%					%
			委託管理費	96,380			%					%
			利用料金	84,568			%					%
		R9 年度	その他収入	70,640			%					%
			支 出	250,774			%					%
			損 益	814			%					%
			収 入	252,895			%					%
			委託管理費	96,380			%					%
			利用料金	85,345			%					%
			その他収入	71,170			%					%
支 出	252,655				%		%					

R10 年 度	損 益	240			%		
	収 入	255,646			%		
	委託管理費	96,380			%		
	利用料金	86,121			%		
	その他収入	73,145			%		
	支 出	255,572			%		
	損 益	74			%		

※利用料金（令和7年4月改定）…施設利用料、ヨットハウス利用料

※その他収入…食堂利用料、その他、自主事業収入

※千円未満切捨てしているため、内訳と合計が一致しない場合あり。

※令和8～10年度は当初事業計画通りとしているが、その都度実情に応じて変更する

＊事業収支計画の達成に向けた取組み

(1) 施設利用料収入の確保

・青年、一般の施設利用料金の値上げ

青年

	R6 年度	R7 年度	増額幅
宿泊（府内）	2,355	2,500	145
宿泊（府外）	2,835	3,250	415
日帰り（府内）	1,070	1,200	130
日帰り（府外）	1,275	1,560	285

一般

	R6 年度	R7 年度	増額幅
宿泊（府内）	3,090	3,200	110
宿泊（府外）	3,770	4,160	390
日帰り（府内）	1,425	1,500	75
日帰り（府外）	1,715	1,950	235

・付帯設備等利用料金値上げ

	R6 年度	R7 年度	増額幅
カッター	315	390	75
エンジン艇	520	530	10
1人乗りカヌー	635	640	5
2人乗りカヌー	1,270	1,280	10
カナディアンカヌー	1,785	1,900	115
OP	1,570	1,700	130
その他のヨット	2,515	2,600	85
いかだ	315	480	165
野外すいさん用具	105	120	15

		・隣接する里海公園等との連携、地域資源の活用による利用促進の取組み ・府内の各種学校、近隣他府県の小中学校、前年度利用団体へのパンフレット及び広報動画（二次元コード）配布等による新規開拓及び利用促進 ・高校・大学の合宿等、塾や企業研修の誘致 ・閑散期における企業研修、各団体への営業活動による新規開拓及び利用促進 ・若者文化の発信拠点としてコスプレ団体やグループの受入促進、関係団体との連携による利用促進（コスプレ団体今年度2団体） (2) 自主事業収入の増額 ・シーツ代（100 円）の徴収 ・ごみ袋代（100 円）の徴収 (3) 給食費の値上げ <table><tr><td></td><td>R6 年度</td><td>R7 年度</td><td>増額幅</td></tr><tr><td>朝食</td><td>530</td><td>590</td><td>60</td></tr><tr><td>昼食</td><td>660</td><td>730</td><td>70</td></tr><tr><td>夕食</td><td>910</td><td>980</td><td>70</td></tr></table>		R6 年度	R7 年度	増額幅	朝食	530	590	60	昼食	660	730	70	夕食	910	980	70			
	R6 年度	R7 年度	増額幅																		
朝食	530	590	60																		
昼食	660	730	70																		
夕食	910	980	70																		
(2) 安定的な運営が可能となる人的能力	○各部門に必要な人員が適切に配置されているか ○職員の採用、確保が適切に実施されているか ○職員の指導育成、研修が適切に実施されているか ○職員の勤務形態、勤務条件が適正に確保されているか	1. 管理体制 ①職員体制及び配置(資料1 参照) ・今年度、常勤職員1 9 名・非常勤4 名体制で運営管理に取り組んでいる。 ・清掃及び保安警備業務に2 名のパート職員、給食業務にパート2 0 人を配置する。 ・清掃及び保安警備業務については、岬町シルバー人材センターの協力を得ている。 ②管理監督体制・責任体制 (1) 運営協議会の設置・開催 ・共同2 法人の責任者及び施設責任者(所長・副所長)による運営協議会を設置、月1 回定期的に協議会を開催し、運営管理状況の把握と業務調整を行い、円滑な運営に取り組んでいる。 (2) 2 法人の基本業務分担 ・ナンプフードサービス(株) 共同2 法人の代表責任者 管理部門の総括業務、総務、施設管理業務、給食業務 職員の舟艇活動の研修業務 ・N P O 法人N A C 事業部門の総括業務、利用受付業務、プログラム指導業務、自主事業企画業務 営業企画業務、職員の舟艇活動の研修業務 ③現場の責任体制 (1) 全体会議等諸会議の開催 ・所長を総括責任者とし、所長・副所長が事業部総括及び管理部総括を分担する。 ・各部門に部長、マネージャー、サブマネージャーを配置、各々の管理責任のもと業務を遂行している。 ・センターの円滑な運営・業務調整の為、幹部会議及び業務毎に必要なに応じて会議を開催	A (A)	職員体制、管理体制ともに必要な人員が適切に配置されており、職員の勤務形態、勤務条件についても、適正に確保している。 職員の採用、確保については、経験豊富な職員を継続雇用するとともに、適宜、欠員の補充も行っている。 職員の指導育成、研修については、施設の管理運営に当たり必要な研修等を適切に実施している。公の施設であることを十分認識した上で、引き続き府民・利用者目線での知識の習得や人材育成に努められたい。	A (A)	利用者の増加に伴い、より一層、受入れ態勢を充実させ、安全面には注意されたい。															

		する他、施設の安全管理の為、安全管理委員会、MC 会議を開催している。 2. 従業員採用、確保の方策 ①海洋センター勤務職員の継続雇用及び人材の登用 - 施設を安全、安定的に運営するためには、経験豊かで専門性を有した職員の確保が重要であり、指定管理者が青少年活動指導者として養成してきた現職員を全員継続雇用している。 ②欠員の補充確保 - 職員に欠員が生じた場合には、共同 2 法人の職員の異動の他、野外教育等の実践経験のある者、海洋センター等青少年施設のボランティアリーダー経験者、環境学習や海洋活動に関する知識を有する人材の中から補充採用するとともに大学の求人広告もおこなっている。 3. 従業員の指導育成、研修体制（資料 7 参照） - 青少年の健全育成施設に従事するに相応しい職員の養成確保のため、職員に必要なスキルや理論等及び、個々の職員の業務能力と業務意欲の向上を図るための研修に取り組んでいる。 ①研修 (1) 定例研修・訓練 - 食品衛生管理講習、食品取扱衛生講習、人権研修、救急法（心肺蘇生法・AED）、青少年教育関連講習、地震津波災害対応訓練、消防避難訓練の実施。 (2) 技術研修 - 海洋活動の各プログラムの指導及び指導救助艇の操船技術と救助法、陸上活動の各プログラムの指導技術等の研修の実施。 (3) 自己研修 - 外部で実施されている各種研修会・講習会に参加し、個々の職員の知識・技術等の向上を図り、職員としての資質を高める。 * 小学校教員免許取得のための通信教育の受講 * 近畿地区青少年教育施設協議会が実施する若手職員研修会受講 * 大阪府キャンプ協会の専門部会への参加 他 (4) 資格取得研修 - 海洋活動に必要な船舶免許及びカヌー指導者資格の取得、野外活動や環境教育の指導向上のための自然体験活動指導者資格及び、キャンプインストラクター資格、海上・陸上特殊無線技士資格等の資格を取得させる。 (5) 関係団体が実施する研修会への参加 - 青少年育成団体等関係団体が実施する研修会、セミナー等への参加を通して職員の資質の向上を図る。 * 大阪府キャンプ協会主催のキャンプサロンへの参加 * 関西テレビ青少年育成事業団等主催のリスクマネジメントセミナーへの参加 * 自然体験活動推進協議会主催のリスクマネジメントセミナーへの参加 * 近畿地区青少年教育施設協議会主催の研修会への参加 他 (6) 職員の業務能力の向上 ○ J T による職務研修の実施による業務能力の向上を図る。				
--	--	---	--	--	--	--

- ・個々人の業務目標（達成目標、改善目標、資格取得目標等）を持って業務に取り組むために、チャレンジシートを作成させる。
- ・PDCAサイクルによる業務の取組み。

②大学生専属ボランティアリーダー養成研修

- ・舟艇活動や自主事業（子ども対象事業等）の指導に当たるために必要なスキル及び理論研修を、資料7の研修計画に基づき、年間を通して取り組んでいる。

(1)理論研修

- ・子ども達の指導に必要な青少年の理解、対人援助法（グループワーク理論）、救急法とリスクマネジメント、食品衛生と食物アレルギー、組織キャンプ理論等の理論研修。

(2)実技研修

- ・子ども達の活動指導に当たるための舟艇活動、キャンプファイアー、野外炊さん、各種クラフト、環境プログラム等の実技習得研修。

(3)OJT

- ・事業の初めに現在の子どもたちの状況把握、終了後の振り返りを行い、日々変化する子どもたちへの理解を深めている。

4. 職員配置計画

(単位:名)

業務内容	雇用形態	申請時 人数	R6 年度 人数	R7 年度 人数	R8 年度 人数	R9 年度 人数	R10 年度 人数
全体総括者 所長・副所長	常勤	2	3	2			
庶務・管理担当	常勤	6	5	5			
	パート	3	1	1			
食堂運営担当	常勤	1	1	1			
	パート	20	20	20			
利用促進担当	常勤	5	4	4			
	パート	0	2	2			
リーダー育成 事業企画担当	常勤	3	3	3			
海洋活動担当	常勤	5	5	4			
	パート			2			

5. 業務外注計画・実績

(単位:千円)

	外注業務	予定 金額	R6 年度 実績	R7 年度 見込	R8 年度 見込	R9 年度 見込	R10 年度 見込
海 洋 セ ン ター	設備管理業務	17,831	14,838	17,649			
	清掃業務	1,406	1,405	1,405			
	自家用電気工作 物保安管理業務	658	658	718			
	植栽樹木管理	1,500	0	0			

		<table><tr><td rowspan="3">ヨットハウス</td><td>設備管理業務</td><td rowspan="3">4,810</td><td rowspan="3">3,444</td><td rowspan="3">3,524</td><td rowspan="3"></td><td></td><td></td></tr><tr><td>清掃業務</td><td></td><td></td></tr><tr><td>自家用電気工作物保安管理業務</td><td></td><td></td></tr><tr><td>計</td><td></td><td>26,205</td><td>20,345</td><td>23,296</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	ヨットハウス	設備管理業務	4,810	3,444	3,524				清掃業務			自家用電気工作物保安管理業務			計		26,205	20,345	23,296							
ヨットハウス	設備管理業務	4,810		3,444					3,524																			
	清掃業務																											
	自家用電気工作物保安管理業務																											
計		26,205	20,345	23,296																								
(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤	○施設運営管理者として、適切な財務状況が確保されているか	1. 法人等事業者の経営規模、事業規模、組織規模等の運営基盤 共同2法人は、各法人の目的である事業に取り組み、財政状況の改善に努め、安定的な運営が図られるよう取組んでいる。(資料11, 12 参照) 2. 指定管理者を構成する2法人の事業内容 ・ナンプフードサービス(株) 企業、学校、病院等の食堂運営及び給食提供 ・NPO 法人 NAC 市町村の野外活動施設の管理運営(寝屋川市、四條畷市、八尾市、柏原市、枚方市、兵庫県猪名川町(R7.4～)事業の受託)、柏原市マイクロツーリズム推進業議会事務局、近畿青年の家連絡協議会役員、指導者の養成及び青少年の自然活動体験等の推進				B (B)	指定管理者の財政状況の悪化が懸念される内容となっているが、今後も物価及び人件費の上昇が見込まれることを踏まえながら、運営法人の財政的な基盤の安定化に努められたい。	B (B)	海洋センターの直接的な運営ではないものの、給食業務やプログラム提供に支障が出ないよう、引き続き立て直しに努められたい。																			

＜評価集計表＞

指…指定管理者の自己評価

施…施設所管課の評価

＜評価基準＞

評価項目	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		
	指	施	指	施	指	施	指	施	指	施	
Ⅰ．提案の履行状況に関する項目											
(1) 施設を管理運営する基本方針	S	A	S	A				-	-	-	
(2) 公平・平等な利用を図るための具体的手法・効果	S	A	A	A				-	-	-	
(3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果	B	B	S	S				-	-	-	
(4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果	S	A	A	A				-	-	-	
(5) 管理運営業務実施計画の実施状況	S	A	A	A				-	-	-	
(6) 自主事業計画の実施状況	S	A	S	A				-	-	-	
(7) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	A	A	A	A				-	-	-	
(8) 管理運営経費縮減方策	B	B	A	A				-	-	-	
(9) 府施策との整合	S	A	A	A				-	-	-	
Ⅱ．さらなるサービスの向上に関する事項											
(1) 利用者満足度調査等	B	B	B	B				-	-	-	
(2) その他創意工夫	S	A	S	A				-	-	-	
Ⅲ．適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する項目											
(1) 収支計画の内容、適格性及び実現の程度	B	B	S	S				-	-	-	
(2) 安定的な運営が可能となる人的能力	A	A	A	A				-	-	-	
(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤	B	B	B	B				-	-	-	
集計結果											
項目ごとの評価 〈全14項目〉	S	7	0	5	2			-	-	-	-
	A	2	9	7	10			-	-	-	-
	B	5	5	2	2			-	-	-	-
	C	0	0	0	0			-	-	-	-
年度評価		B		A				-		-	
総合評価・最終評価											

●項目ごとの評価

S (計画を上回る優良な実施状況)

A (計画どおりの良好な実施状況)

B (計画どおりではないが、ほぼ良好な実施状況)

C (改善を要する実施状況)

●年度評価

S (項目ごとの評価のうちSが5割以上で、B・Cがない。)

A (項目ごとの評価のうちBが2割未満で、Cがない。)

B (S・A・C以外)

C (項目ごとの評価のうちCが2割以上。又は、Cが2割未満であっても、文書による是正指示を複数回行う等、特に認める場合。)

●総合評価及び最終評価

I (評価対象となる年度の年度評価のうちSが5割以上で、B・Cがない。)

II (評価対象となる年度の年度評価のうちBが3割未満で、Cがない。)

III (I・II・IV以外)

IV (評価対象となる年度の年度評価のうちCが5割以上。ただし、評価対象期間の後半、取組状況に継続的な改善傾向が認められる場合を除く。)